

戦後80年特別企画展

軍都の風景と 占領の影

松本清張の戦前・戦後

※陸軍小倉造兵廠で製造された風船爆弾の、
気密度検査(滴球テスト)をする様子。
林えいだい氏旧蔵、あらん文庫資料室所蔵。
登戸研究所資料館提供

HIROSHIMA



※ KOKURA

日常という平和に潜むブラックボックス—



令和7年 9月20日[土] — 11月24日[月・休]

9月21日は国際平和デーです

会場 | 松本清張記念館 企画展示室

主催 | 北九州市立松本清張記念館

[開館時間] 午前9時30分～午後6時(入館は午後5時30分まで)

[入場料: 常設展示観覧料に含む] 一般 600円[480円] / 中・高校生 360円[280円]

小学生 240円[190円] []内は30名以上の団体料金

[休館日] 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)・館内整理日(10月30日Ⓢ)

北九州市立
松本清張記念館

戦後80年特別企画展

軍都の風景と 占領の影

松本清張の戦前・戦後

松本清張の乳児期の写真は、広島市

の写真館で撮影されています。生誕後、家族で移り住んだ小倉市で出生届が出された清張は、広島と小倉2つの軍都で生まれ育ったといえるでしょう。軍人は、軍人や軍属とその家族が集まる都市で、商都でもありました。清張を軸に、文学者と軍都の意外な接点を発見します。

また、日常を奪われた者の哀しみや、戦争を厳しい眼で描いた清張作品を紹介。平時にも戦争の影が射していること、戦時下だけが戦争ではないことを、これらの作品は教えてくれます。

清張からの問いかけに、私たちの日常という平和を、いまいちど確かめなおしてみませんか。

I. 松本清張と軍都

清張と関わりの深い土地である広島と小倉を中心に、時に入れ違い、時に重なり合う文学者の足跡にフォーカスします。

広島

- ◆文学者と兵隊のまち
——原民喜、中原中也、松本清張
- ◆被爆のまち広島を歩く清張



明治44年5歳の中原中也※1



明治38年1歳の原民喜



明治42年生後2ヶ月の清張



小倉赴任前日の森鷗外※2

小倉

- ◆文学者と兵隊のまち
——森鷗外、松本清張、やなせたかし
- ◆小倉あるいは北九州の戦跡



松本清張



小倉の部隊に入舎したやなせたかし※3

昭和19年朝日新聞写真帳の松本清張

※1 画像提供：中原中也記念館 ※2 文京区立森鷗外記念館所蔵 ※3 画像提供：公益財団法人 やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団

II. 占領下のキャンプ・ジョウノ

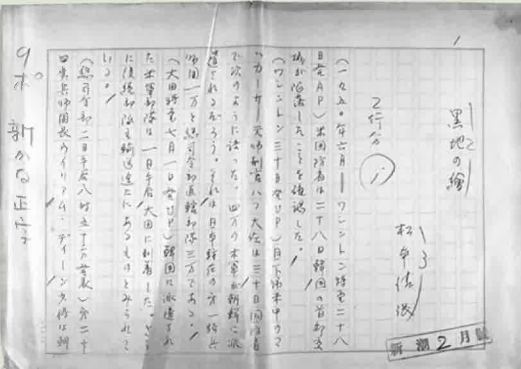
「黒地の絵」の舞台となった「キャンプ・ジョウノ」の映像を放映。「黒地の絵」直筆原稿も公開します。



元・米軍キャンプ・ジョウノ/倉庫



『黒地の絵』(1955年 光文社)



『黒地の絵』原稿

1952. CAMP JYONO

「黒地の絵」の舞台であるキャンプ・ジョウノが撮影されている映像を上映します。(映像出典：米国立公文書館)

III. 平和を問う清張作品

戦争を直接的に描いた清張作品は、さほど多くはありません。しかし、戦争によって家族との日常を失った者の哀しみと憤りや、戦後も続く旧軍人の謀略などを、厳しい眼で描いた名作があります。

新情報

衛生兵・清張と、軍医・小穴勝弘

松本清張は衛生兵だった時の上官(軍医)・小穴勝弘と、戦後、作家となったあとも交流を続けていました。

小穴勝弘と松本清張 ※4

『黒い風土』原稿(のち『黄色い風土』に改題)



◆明治大学平和教育登戸研究所資料館 協力展示

「小説帝銀事件」「日本の黒い霧」「黄色い風土」などで清張はいち早く「登戸研究所」の存在に触れていました。



資料館外観 ※5

資料館内 戦艦大和模型 ※5

※4 上條千里所蔵 ※5 登戸研究所資料館提供

北九州市立 松本清張記念館

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号
TEL.093(582)2761 FAX.093(562)2303
<https://www.seicho-mm.jp>



アクセス
JR...小倉駅より徒歩20分 西小倉駅より徒歩10分
バス...小倉城・松本清張記念館下車
車...北九州都市高速、大手町ランプより5分



勝山公園周辺の
戦後80年
特別企画

北九州市 中央図書館

戦後80年企画展示

7月2日(水)~10月13日(月・祝)

北九州市 平和のまちミュージアム

企画展「記憶の表象—継承とは何か、を問う—」

7月23日(水)~10月13日(月・祝)

北九州市立 文学館

企画展「ペンと戦争—火野葦平、林芙美子の場合—」

7月19日(土)~9月28日(日)

スタンプラリーのお知らせ

4館の特別企画展期間中の9月20日から10月13日まで(文学館は、文学館の特別企画展終了後も10月13日まで)、4館中3館に入館し専用スタンプを押印した方へオリジナルグッズを提供します。(限定1,000人)